

Tomozo

Free Paper
2012
6/9
vol.18



特集

双子特集

book review

アゴタ・クリストフ

悪童日記

.....4

アダム・ファウアー

数学的にありえない

小路幸也

キサトア

森博嗣

そして二人だけになった

僕が「横浜の本屋さん」について語るときに語ること

12

漫画レビュー

.....

14

ヤマザキマリ

ルミとマヤとその周辺

松井優征

魔人探偵脳噛ネウロ

西炯子

甥の一生

伊藤たかみ

ミカ!

内藤泰弘

血界戦線

の人間を一人の人間として読ませることで、密度の濃い物語を印象付けることが可能なのである。『悪童日記』ではそれによって悪童ふりを前面に押し出し、戦争の非道さを表だして読者に感じさせない。けれど、背景として自然に読み取らせることになるため読者の脳裏に刻む。少年たちの日記を読者が読むという形態も面白い。他人の日記を盗み見することによる後ろめたさを感じることもあるが、一番面白い効果は知らず知らずのうちに読者の視点が俯瞰から凝視に変わってしまうことだろう。気づいた時には自分が書いた日記を読んでいるような視点になっっている。少年たちの視点と読者の視点とが重なることで、少年たちの経験が読者の経験となる。



＜ぼくたちは正確な話し方をしているのです＞

『悪童日記』は主人公である双子の日記(作文)という形態をとりながら、戦時中の国内情勢について描かれたものである。物語は戦火の激しい大都会Vから、小さな街Vに住むおばあちゃんの下へ双子の少年と母親が疎開するところから始まる。

文章の特徴としては、へぼくらは、きわめて単純なルールがある。作文の内容は真実でなければならぬ、というルールだ。ぼくらが記述するのは、あるがままの事物、ぼくらが見たこと、ぼくらが聞いたこと、ぼくらが実行したこと、でなければならぬ。

(本文42頁) とあるように、徹底的に感情描写を避け、その日あった出来事について淡々と表記

されることが挙げられる。

普通、私たちが小説に心を傾けるのは感情の描写に共感、反感を覚えることに起因するだろう。しかし、アゴタ・クリストフの手法によると、私たちは事実を事実として直接たたきつけられる。酷なまでに、だ。また、発言したことは事実であるが、発言者の感情は見える。発言の後ろ側を事実の描写と混ぜることで読者に心を傾けさせる、あるいは浸透させることに成功している。

主人公が双子の少年であることもまた、私たちに戦争というものについて考えさせる一端となる。双子を作中に用いることは二人分の人間に一人分のアイデンティティを埋め込めることが出来るということでもある。つまり、二人

感情描写を排す技法に因るところも大きい。この効果によって、少年たちの目から見た戦争を追体験する。それは繊細で感度の高いものであって、前線に立つ大人からは感じ取れない視点だ。その点においても『悪童日記』は珍しい形態の作品である。獨創性、物語の完成度、後押しされ国際的なロングセラーとなっている本書は歴史的にも、もちろん文学的にも高い価値を持つ作品で、一読して間違いのないものである。是非手に取っていただけたらと思う。

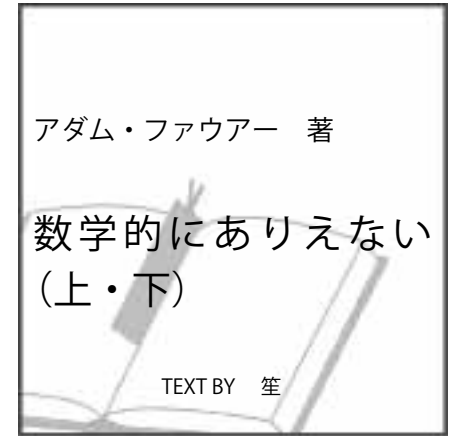


文庫：301 ページ
 出版社：早川書房
 ISBN-10：4151200029
 ISBN-13：978-4151200021
 発売日：

「ノンチ・コード」と並び評されるが、加えて評価したいのはその人間造形の見事さである。

巨大な陰謀に巻き込まれた天才数学者。人体実験を繰り返して、謎の研究を進める科学者。組織きつての優れた能力を持つCTA工作員。……書き連ねれば「異常」に思える癖だらけの登場人物たちは、しかし1人1人を見ると非常に人間くさく、魅力的な存在だ。中でもキーパーソンの一人……デイヴィッドの双子の兄、ジャスパーと言ったら！

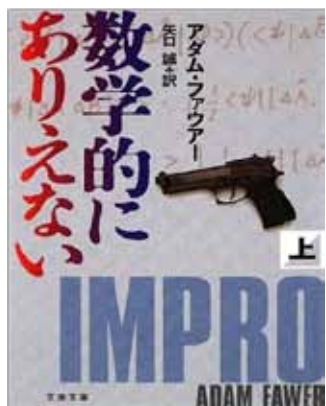
統合失調症で精神病院に入院していた彼の、韻を踏む特徴的な語尾のリズムが与える高揚感。病的な痕を残しつつ、煌めきを秘める瞳に裏付けされた知性。一方で、彼は「ケイン」にとつての「未来」



猶予は20秒。爆発に巻き込まれる確率は37.458%——

の姿、現在抱えている不安・恐怖をそのまま体現した姿としても描かれる。それ故に、どこか一線を画した位置に立っていた二人の垣根が、感覚的体験の共有を経て取り払われた時「あるべき姿」にもどったかのような安心感・安定感ももたらされたあの不思議さよ。分かれ、溶けあい、他と交わりながら、やがて「ケイン」が辿り着く「真実」は、読了後もその余韻を残したまま私の中で響いている——似る——散る——昼。

流石に彼の人の推薦する一冊。より多くの人に読んでもらいたくもあるのだが、この面白さを独り占めできぬのもなんだか惜しい。



文庫：362 ページ
 出版社：文藝春秋
 ISBN-10：4167705753
 ISBN-13：978-4167705756
 発売日：2009/8

本を買えば諭吉が去るのが当たり前、平均2.5冊/日ペースで読書に耽る私は、しばしば「本の虫」と称される。読書家としてこれほど名誉な称号もないが、尊敬する俳優、故・児玉清氏ほどその呼び名にふさわしい人物を、私は幾人も知らない。

そんな児玉氏の訃報に衝撃を受け、打ちひしがれた昨年5月。彼が愛した本を求めて書店を彷徨い、出会ったのが本書である。

主人公ケイン＝デイヴィッドは電卓いらずの《レインマン》、統計学を専攻する若き天才数学者だ。天職と呼べるものを見つけ、上向いてきていたはずの彼の人生は、突如襲った癲癇の発作によって大きく狂う。こびりつく耐え難い悪臭。限りなく「0」に近い確率に敗れ、抱え込んだ多額の借金。《F. inish》——絶望すら覚える中でリスクに怯えつつ手にした実験的治療薬が、彼の驚異的な能力を目覚めさせる。

どこまでも数学的で、どこまでも数学的に「ありえない」「出来事」の連鎖。

量子力学・統計学・確率論——パスカルの確率論にハイゼンベルクの不確定性理論、シュレーディンガーの猫にラプラスの魔……専門的な理論が散りばめられたこの「純粋なエンターテイメント」小説は、さながらハリウッド映画のようにノン・ストップで進行する。知的好奇心を適度に刺激しつつ、大衆娯楽としての域を越えぬ著者の技巧は、少し前に話題を攫ったダン・ブラウンの『ダ・ヴィ

といて終わらせてその現実流
 されたら、そこで終わってしまう。
 それでは未来は変わらない。そこ
 から考え、足掻き、なんとか希望
 を探していくことが大切だ。常識
 が覆った世界でまるで太陽と月の
 ように背中合わせに寄り添って生
 きるキサトアたちに、本書を通し
 て教えられた気がした。
 ところで作中で、ある一人の女性
 がアーチと彼の仲間たちにこう語
 りかける場面がある。「自分の本
 当の気持ちを閉じこめておくのだ
 けはダメよ」。心が死んでしまっ
 前に、自分が本当はどうしたいの
 かをちゃんと言うことは大切だ。
 「本当の大人っていうのはね、そ
 ういう子供の気持ちをちゃんとく
 み取ってくれるものなの。そうい
 う人間を大人って言うの」。

本書にはいくつも素敵な言葉があ
 るが、特にこれは私には大学生に
 なった今だからこそ心に沁みる言
 葉だった。自分はそんな大人にな
 れているだろうか。これから年を
 重ねていくにつれてそんな人間に
 なるのだろうか。本書で描かれ
 る大人のように子どもたちを温か
 く見守り、時に全力で向き合いな
 がら、子どもたちが楽しく何も憂
 いなく遊べるように陰で支えてい
 けるだろうか。思わずそう考える。
 本編の結末もエンディングとして
 は秀逸だが、文庫本に収録されて
 いる書き下ろし掌編がまた格別
 良い。本編のさらに数年後、アー
 チが創りあげる芸術作品とは一体
 どんなものなのだろうか。想像が
 膨らみワクワクが止まらず、そし
 て最後のページに思わず声をあ



文庫：318 ページ
 出版社：文藝春秋
 ISBN-10：4167801906
 ISBN-13：978-4167801908
 発売日：2012/05



色を失った兄と時間を失った
 双子の妹の、強くしなやかで
 やさしい日常。

日の出と日の入りを同じ場所
 から眺めることができる海
 辺の町。本書の主人公、病気で
 色がわからない天才少年芸術家・
 アーチは、風のエキスパート
 である父・フウガと双子の妹・キ
 サとトアと共に穏やかに暮らして
 いた。ある日突然「大人の事情」
 に巻き込まれることになるが、そ
 れを受け止め、人々を幸せにでき
 る自分だけの方法をアーチは探し
 ていく。今回紹介する「キサトア」
 は、この風変わりな町の一年間を
 めぐる、童話のようなやさしい物
 語だ。
 日の出に目覚め、日の入りに眠る
 キサ。日の入りに目覚め、日の出
 に眠るトア。実はアーチの双子の
 妹、キサとトアはそんな不思議な
 体質を持ち、二人が顔を合わせて

会話ができるのはお互いが眠りに
 つく前の数分間だけだ。本書のタ
 イトルにもなっているこの双子が
 象徴しているものは、一体なん
 のだろうか。
 キサには出来るがトアには出来な
 いことが山ほどあり、トアには出
 来るがキサには出来ないこともた
 くさんある。しかし、彼女たちに
 とってはそれが「当たり前」だ。
 そして家族は、その現実に対して
 なぜ、と問いかけるのではなく、
 ではどうしたらいいか、と前向き
 に考える。毎日をより楽しく輝い
 たものしていく方法を。みんなが
 幸せになれる道を。
 「当たり前」な事実を私たちは時
 に不満に思い、嘆く。しかし、た
 だ不満を抱くだけでは何の解決に
 もならない。「当たり前」だから



どこまでも読者に優しくない作家。それが森博嗣。

目を引くタイトル。自然内容を予想する。手にとつて、ざつと裏表紙に目を通す。

クローズドサークルで起きる殺人事件。それも巨大コンクリート構造物という非現実的な舞台。主人公は盲目の天才科学者と彼のアシスタント。反転する世界、衝撃の結末……。

どこことなく森氏の処女作である『全てがコになる』と似ている。そして本格ミステリーの雰囲気は漂っている。いったいどんな結末が待っているのだろうか、と期待が胸膨らませ読み始める。

前半、テンポよくストーリーが進んでいく。誰か？どうして？残された人間の恐怖と疑惑が渦巻き手に汗握る展開。各章の終わりに

挿入された、森作品お約束の切れ味鋭い天才トーク。見事、作品に緩急を生み出している。

そして事件は真相が解明されないまま終わり、主人公たちによる事件の考察が始まる。ついに明かされる事件の真相。本格ミステリイと呼ぶにふさわしい大業トリックが暴かれる。全くもって予想もできない。しかし、確かに、十分に可能。そして反証不可能。彼らの証言が唯一の証拠。そのトリックを知った上で読み返すと、これは伏線として使われていたのか……と気づき、森氏の発想の柔軟さ、縦横無尽な様に驚かされる。本当に、関係ないことが一切書かれていない。こつして事件は解決され、物語は収束する。

実かを。

しかし不思議なことに、まだ、ページが残されている。活字は尽きていない。これ以上何を語るのか、と当然の疑念を抱く。

事件が終わってから、一人の刑事が登場する。完全な第三者として。ストーリーに客観性をもたせるため。一度主人公たちの手によって解決を見た事件に、更にメスを入れ、それまでの全てのやりとりを反転させてしまふ、根本的に揺るがす真実を与える。

本格ミステリを順当に進んでいったのに、その世界観が崩壊する。なんでこんなことをしたのかと思わざるを得ない。

「よろしい、では、僕の方からきき返そう。どうして、壊してはい

けないのかな？あれば、僕が自分で、自分の金で、作ったものだ」作中に登場する一言。それがきつと作者の返事。

本格ミステリイを読みたくて思つて読んでいたのに、期待を裏切られた、と憤慨して本を壁に投げつけなければならないのか。

なんとという斬新なアイデアなんだ、これこそ森博嗣の真骨頂だ、と感心して本棚のよく見えるところに飾ればいいのか。

悩んだ末、僕は本を机においてPCを立ち上げた。書評を書くためだ。

そして想像してみることにした。この書評誌がきっかけで本を手にとつてくれる人にとつて、何が真



文庫：557 ページ
 出版社：新潮文庫
 ISBN-10：4101394318
 ISBN-13：978-4101394312
 発売日：2002/11

僕が「横浜の本屋さん」について語るときに語ること

アサヤマプライム

めくるめく新学期が始まっていくらか日数が過ぎてしまいました。みなさんは謳歌しているのでしょうか、青春を。こんにちわ、アサヤマプライムです。

僕が思うに、人と人とのコミュニケーションの方法というのはさまざまにもきちんとコミュニケーションが成り立っています。そこが紙面上であっても僕たちはきちんと出会って、語り合っているのです。短い青春の間にあなたに出会えて

うれしい、と思います。そして僕はいろんな人と会って、話がいえます。そんなわけで僕は本を読みます。出会うために本屋さんにいきます。今回、僕は横浜にある本屋さんについてお話ししたいと思います。

横浜といってもなかなか広くてYNU周辺は「横浜」じゃないーみたいになっていて、そうだねーと僕も思う。じゃあどこまでが「横浜」？ってなるとみんなが想像するのはみなとみらいとかそのへんであって、そうだとするとなんかそんなアミューズメントパークみたいで、そこだけと横浜は成り立たなくて、たぶん「横浜」っていうのはきつと地方からでてきた僕みたいな人間の夢幻郷みたいなものだと思う。でもきつ

床が絨毯でふかふかしていて、照明もあたたかい色合いで、なおかつ小さなカフェがついています。落ち着いた雰囲気のかなかきさめですがきちんとまとまっていて、商品の回転も速いのでいつ行っても楽しめます。

紀伊国屋書店

そごうにあります。そごうはちよつと駅から歩きますが、ぜひ歩きましょう。いいお店です。同じフロアにロフトも入っているのがダブルで楽しめます。さすがに紀伊国屋さんだけあって本の並べ方、コーナーの作り方、揃えぐあいがばっちりです。硬派って感じがあります。本屋いきたいーって時はぜひここへ。王道本屋さんです。
有隣堂ダイヤモンド街店
ここもまた使い勝手がよい本屋

さんです。ふらつと寄れます。僕が思うに本屋さんや図書館っていうものは行くものではなくて寄るもの。ここは体現しています。お店が偏在しているのでジャンルによつて移動しないといけないのですが、そういうところもおもしろいです。利用者が多いので特集が多様で、ポップもおもしろいです。流行を感じるがあります。

あおい書店

さすが地域最大を誇っています。とてもひろい。ダイエーの中でフロアにわたつてあります。これこれの分野の本が読みたいと目的があればぜひここへ。どの分野も品ぞろえがいいです。

丸善

ごめんなさい。ここへは行ったことがないです。最近あることを

とそんなわけないとも思う。いろいろ書いたけど何が言いたいのかというと、横浜広いから横浜駅周辺の本屋さんに限定するわけとです。限定しちゃいましたがそこにはたくさんの本屋さんがあるって、いろいろ梯子していたら半日ぐらいつぶれちゃうほどです。たくさんの本屋さんにはそれぞれたくさんの違いがあつてみんなとても魅力的です。彼らのそれぞれの個性を伝えたいを紹介したいと思います。

有隣堂ルミネ店

ルミネの6Fだったか7Fにあります。ルミネってとても行きやすいですよ。駅を利用するにしても、ショッピングするにしても。そこにある有隣堂はふらつと寄れてとても雰囲気がいいお店です。

知りました。マルイにあるそうです。

みなとみらいツタヤ

これはみなとみらいにあります。なんと26時まで開いています。なんと買わなくても隣のスタバに持ち込みOKです。理想郷ですね。2Fには古本屋さんがあります。天国ですね。

以上にしましょう。

本との出会いはとても楽しくわくわく、どきどき、そわそわです。本屋さんはその出会いを提供してくれます。みなさんも素晴らしい出会いを求めて足をはこんでみてください。

れを買ってもらっただけでクラス中に自慢していた時代が舞台と なっています。貧しさなんて気に しない、幸せな家族を感じられる ノスタルジックな作風です。

少女漫画はほとんど読んだこと がないので、読む前から少女漫画 の繊細さなんて微塵もわからない と思っていましたが、意外と読み やすいものでした。でも、スラスラと感想が出てこなくてモヤモヤ した感情が読み終わったあとと ずっと渦巻いている気がするの です。心の機微に触れる絵のタッチ に戸惑いとも言えるものがこみ上 げてきます。華恵さんがこの本が 選んだのは「絶対無理なのにずつ と会いたかった人たち」がいるか らです。貧しいけど温かみのある 家族やクラスメイト。今の時代は



本を贈りませんか

東

京駅のすぐ近くにある丸善 書店丸の内本店。その四階 に松丸本舗というスゴイ本屋さん があります。何がスゴイかとい うと、ごく一般的な本屋ではジャン ル別、単行本・新書・文庫別に見 やすく陳列されていますよね。で も、松丸本舗の棚には小窓がつい ていたり階段状になっていたりし て、そこへキーワードによって縦 横自由に配列されています。まる で本の迷宮でいつまでも居たくな るような空間です。……これでは スゴさが伝わりませんね。百聞は一 見にしかずですから、本好きなら是非行ってみてください。さ て、その松丸本舗では去年クリスマスフェアとしてブックギフトを やっていました。著名人がセレクト した本を重箱型パッケージで大

みんなが豊かになっている恵まれ た時代なのでそのような人たちに 会うのは絶対無理です。そこま で は華恵さんの意図が理解できま した。でも、「ずつと会いたかった」という気持ちがいまいちわかりま せん。ずつとはいつから？会っ てどうするの？等と次々と疑問が 出てきます。

本のプレゼントはなかなか奥深 いものですよ。どういう思いを込 めて贈ってくれたのか、ずつと考 えているのが楽しいのです。思い がわかる日がいつか来るでしょ う。

切な人に送ろうという趣旨でした が、私は自分のために買いまし た(笑)。買ったのは、モデル兼 エッセイストの華恵がセレクトし た「絶対無理なのにずつと会いた かった人たち」セレクションで、 重箱型パッケージがとても可愛ら しかったので思わず買ってしま いました。自分と同年代の華恵さん が選んだ本は『ルミとマヤとその 周辺』『たけくらべ』『小さなよつ つの雪だるま』。メッセージレター と手づくりの葉も入っていました。

この作品の登場人物は北国の元 気な小学生姉妹・ルミとマヤ。そ して彼女たちのまわりの頑固で温 かい大人たち。ときは昭和です。 三段式のキャラクター筆箱が宝石 のようにキラキラして見えて、そ



コミック：176 ページ
 出版社：講談社
 ISBN-10：4063406865
 ISBN-13：978-4063406863
 発売日：2008/1



この謎は もう、我が輩の舌の上だ

父 親を殺された女子高生・桂木弥子の前に、ある日突然「脳噛ネウロ」と名乗る男が現れる。『謎』を食べて生きる魔人・ネウロは、自らの空腹を満たす究極の『謎』を求めて魔界から地上に出てきたのだという。たくさん『謎』を食らうべく、ネウロは自分の隠れ蓑として弥子を探偵に仕立て上げ、様々な事件に関わっていく。

タイトルに「探偵」という言葉は入っているが、決して王道ミステリーではない。作者の言葉を借りれば、あくまで「推理物の皮を被った単純娯楽漫画」なのだ。この漫画には複雑難解なトリックやあつと驚く推理はあまり出てこない。その代わりにスポットが当たるのは、犯人の異常とも思える心

理と豹変する姿。人間の強い思いが犯罪を生み出し、その人を豹変させる。作品の中で、多くの登場人物を通してこのことが描かれる。そしてその描き方はシュールかつグロテスクでブラックジョークたっぷり。どの犯人も個性的で濃いキャラクターばかりで、独特な画風で描かれる狂った表情は圧巻だ。

少し不気味でクセのある画風は、この漫画の大きな特徴である。その一方で、絵に苦手意識を感じて読むのをためらう人も少なくないのではないだろうか。実のところ私もその一人だった。だがそれは非常に勿体無い。アクの強いその画風が気にならなくなるほど、この漫画はストーリーが面白いからだ。正直、初めの数巻や一

部のエピソードが非常に面白い作品は世の中にたくさんある。しかしこの作品はどの巻も安定して面白い。始めから終わりまで一貫性があり最後までストーリーがぶれない、完成度が非常に高い作品になっている。また、ここまで綺麗で爽やかなラストを迎えた作品も珍しいと思う。

具体的というと、全23巻を通して「食欲」と「進化」というテーマが描かれていることがある。主人公の弥子とネウロは、女子高生と魔人という一見何の共通点もない異色のコンビだが、実は二人とも「食欲旺盛」で「食に対するこだわりがある」という点でもとて似ている。弥子は見ただ目によらず超が付くほどの大食い。その食べっぷりは「私、コンクリートで

もバターと醤油で炒めたら食べられると思う」という彼女の名言から察して欲しい。そしてネウロも、『謎』という食料のためならあらゆる手段をつくす。まさに「食べることが生きること」を実践している二人なのである。そしてもう一つのテーマである「進化」。弥子とネウロの成長は「進化」なの

コミック：192ページ
 出版社：集英社
 ISBN-10：4088738349
 ISBN-13：978-4088738345
 発売日：2005/7



生き様を『娼』という漢字を用いて表現したのではないだろうか。これまでつぐみについてつらつらと書いてきたが、最後に海江田についても語ってみようと思う。私は男であるが、つぐみよりもむしろ海江田に惚れた。彼の、受け止めてくれるのではなく受け流すような対応、哲学的な物言い、官能的な姿、それらすべてに魅了され、憧れを抱く。恋愛などというものにさほど興味を示してこなかった私に、年齢に関係なく、心の持ちようで恋愛はいくらでもできるということを教えてくれた。まだ焦る必要はない、と。

これは、これまでの私の人生ありきの感想である。歩んできた道が違えば、感じ方も変わるであろう。大人の女性に読んでほしい、



惜しんでも想うても過去には 誰も戻れへんよ

恋愛。それは人により生きがいかもしれないし、遊びか外かもしれない。同様に、その形態も人それぞれである。本書では、そんな恋愛の一例を示してくれている。

仕事はできるが恋愛に不器用な30代半ばのOLつぐみ。そして、飄々とした50代前半の大学教授海江田。ひよんなことからひとつ屋根の下で暮らすこととなった二人の恋愛模様を哀愁漂うタッチで描いていく。正直言うと、美しくも儂い人の姿を描く点以外では特別絵が上手いとは感じない。しかし、そのデッサン的な画風と巧みなコマ割りにより、主人公たちの心理描写が見事に描かれている。特に、昔の恋愛を引きずり心に傷を抱え

とよく紹介される本作であるが、私はあえて特定の人に薦めるようなことはしない。誰が読もうとも、視野を広げ、より有意義な人生を歩むきっかけとなってくれるであろうから。

る、つぐみの強くも弱い姿は見ていて引き込まれるものがある。

さて、突然だがここでタイトルについて考えたいと思う。気になるのはやはり、『娼』という漢字だ。この字には本来「おとこ」という読みはなく「めおと」と読み夫婦のことを表す。ではなぜ、作者は『男』ではなくこの漢字を充てたのであろうか。私の見解で言えばそれは、『娼』が指すのがつぐみであるからだと思う。作中では随所につぐみのへ男らしさVが描かれている。それは、恋愛を諦め、田舎で在宅勤務をすると決意したことや物怖じせず交渉する姿によく表れている。つまり、普通に恋愛をし、普通に友人と遊ぶ「女」でも、一心不乱に仕事に打ち込む「男」でもない、そんなつぐみの



コミック：192 ページ
 出版社：小学館
 ISBN-10：4091322697
 ISBN-13：978-4-09-132269-2
 発売日：2009/3

使うことができるものであり、決して目に見えるものばかりではないはずである。これでいいやと投げやりにならず、ミカやユウスケのように一日一日を大切に過ごすことでオトナコドモから大人に近づいていくことができるものである。明日がくることにむずむずするほど待ち遠しかった頃に、ふっと戻りたくなる時は本書を読んで過去から未来に繋がる道があることを思い出してほしい。

オトナコドモである私たちは、気づかない間に大人に近づいたように、まだまだ成長できるはずである。成長する途中、私たちはその時その時で何かをそっと置いていかなければいけないときがあるだろう。しかし子供だけでなく大人も幸せになる権利があるのだから、

二十歳になったら、とつぜん大人になるんか



大人になるとは、どういうことなのだろうか。大学生になり、多くの学生は大学二年で法的には大人の仲間入りをする。しかし、気持ち的にどのようになつたのだろうか。小学生の頃は二十歳がとて遠く大人に感じていたはずなのに、気づけば二十歳なんて遠い昔のことである。

本書は、ミカやユウスケ、コウが出会いや試練を通して少しずつ成長していく物語である。周囲や自分の変化に戸惑いながらも、一歩踏み出し前を向いて生きていく姿にほっこり心が温かくなる。そして、うまくいくことばかりではない中で一生懸命考え行動する彼らの姿はとて輝いているように感じた。

なく、自分で決める」これは父さん、ミカやユウスケにそっと教えてくれた幸せになる秘訣である。その教えに倣い、彼らは自分で考え道を選び成長していく。皆さんはこの教えを守って過ごしているだろうか。人に影響を受けることは大切なことだと思う。しかし、決断を人任せにしているは大切なものを見失ってしまうだろう。

明日になったらすぐ大人になつてしまつかもしれないと思つていたあの頃、次の日が来てもいつもと変わらない一日が始まつたように、大人になるためには少しずつ成長していかなければならない。子供の頃のように外見的な成長は分らないが、成長という言葉は子供だけでなくどの世代にも

ら、ユウスケのように明日を意識し未来を描いて生きることが、置き忘れないようにしたい。

子供の頃、憧れていた大人に近づいてきているだろうか。本書を読んで、今まで成長してきた自分を思い返し、十年後の自分を思い描いてほしい。今は全く想像がつかなくとも、いずれ訪れる近い未来なのだから。

文庫：233 ページ
 出版社：文春文庫
 ISBN-10：4167679027
 ISBN-13：978-4167679026
 発売日：2004/4



……つてのが大体のあらすじである。本作の魅力は一癖も二癖もあるキャラクターやB級映画を意識した世界観やストーリーなど色々あるが、何とんでもなくアクションシーンだ。上述の通りヘルサレム・ロットはカオス極まりない超危険空間である。よって街では日常的に銃撃戦やら何やら大騒動が起こっている。さらにライブラの敵となる連中は一筋縄ではいかない。そういうわけで本編にはほぼ毎回戦闘シーンがあるわけだが、読者を飽きさせない魅力がある。映像とは一味違う漫画ならではの迫力というものがあるのだ。アメコミに強く影響を受けた内藤先生の巧みなコマ割りは、型破りで臨場感溢れる一方で読者を置いてきぼりにしない工夫がなされて

いる。アクションに力を入れている漫画はごまんとあるが、読者をしつかり誘導できているものとは少しも少ないのだ。さらにキャッチーな決め台詞が場面を盛り上げてくれる。作者本人がこの漫画を「技名を叫んでから殴る漫画」と言っているように、登場キャラたちは重要なシーンでは技名とか決め台詞を叫んでくれる。中二臭溢れる描写ではあるがここまで徹底されるとむしろ演出として素直にかっこいい。

内藤先生といえば代表作「トライガン」の評価は海外でも高く、知っている方も多いだろう。しかし嘆かわしいことに新作である「血界戦線」の知名度はとても低い。確かに絵柄は今の流行からかけ離れているし、イケメン少ない



征け！ 手始めに世界を救うのだ！

小説、漫画、映像。物語を表現する媒体は幾つかあるが、それぞれ長所もあれば短所もある。書評誌「Tomozo」では主に小説など活字本の書評を行っているが、文字だけで表現する以上、視覚的なイメージをそのまま読者に伝えることは難しい。鬱蒼とした森と一言で言っても色々あるし人間は喜怒哀楽では表せない微妙な表情をする事もある。しかし一番大変なのはアクションだろう。迫力ある戦闘シーンを文字だけで表現するのは至難の技である。自分なんぞの乏しい表現力では「ダダッ、ガッ、ズサッ、ドーン、ズギヤーン」とか残念な効果音の羅列で終わってしまう。百聞は一見にしかずとはよく言ったものである。どうせ漫画レビューという

ならその漫画の利点を生かしたものを紹介したい。というわけで今ご紹介する本は内藤泰弘著「血界戦線」である。

舞台は異界から湧き出る霧に包まれた混沌の街、「ヘルサレム・ロット」。かつてニューヨークと呼ばれたこの街は今や我々が空想上の存在としてきた「異界」へと繋がる人外魔境と化していた。クトウルフ神話よろしく異形生物が街を闊歩し、人智を超えた力を持つ怪物が暇つぶしに世界を滅ぼそうとしたり、異界からもたらされた魔術やら技術を利用しようとする犯罪組織や国家組織その他諸々危ない連中が暗躍したり……。そんな混沌を極めるヘルサレム・ロットを世界の秩序を保つために秘密結社「ライブラ」が駆ける！

し幼女は出てこない。しかし萌えとかそういう視点なしに、純粹に「面白い」と思える今時珍しい漫画だ。最近萌え路線とか狙った漫画ばっかだなーとか不満を抱いている方にこそ是非読んでいただきたい。

コミック： 202 ページ
 出版社： 集英社
 ISBN-10： 4088747232
 ISBN-13： 978-4088747231
 発売日： 2010/1



読書マラソンに参加しよう

読書マラソンとは

読書マラソンは、大学生生活の4年間で本を100冊以上読むことを目標に、全国の大学生協で行われている読書推進活動です。横浜国大生協においてもその活動は行われています。活動内容はいたってシンプル。本を読んで感想を書く。これだけです。

では読書マラソンへの参加方法を紹介します。特に難しいことはありません。

① 生協店舗にあるエントリーシートに必要事項を記入して、書籍部の店員さんを持つ

エントリーカードの募集をして、最も素晴らしいコメントを決めよう、というものです。各賞には豪華な景品が設けられています。今年度も全国から多数の応募がありました。

そんな全国読書マラソンコメント大賞にあわせて、横浜国大生協でも「国大読書マラソンコメント大賞」が開催されました。多くの応募があり、そのどれもが素晴らしいコメントの数々でした。その中から厳正な審査の結果、最優秀

ていってください。手続きがすんだらエントリー完了です。

② 本を読みましょう。ただしコミックスや雑誌、教科書は対象外になっています。

③ コメントカード（ポップカード）に本の感想を書いて、書籍部の店員さんに提出しましょう。コメントカードは書籍部の店員さんに頼めば貰えます。

では参加するとどんな特典があるのでしょうか。実はコメントカードを10枚提出するごとに、横浜国大生協でつかえる図書

賞他が決定され、それぞれ景品が授与されました。

読書マラソン交流会

また、関東圏の読書関連のサークルが集まって、読書マラソン交流会という企画も行われました。会場に作家の森美登美彦さんを招待するなど、大規模な企画となりました。読書マラソンの活動は年々活発となってきました。ぜひ参加し

券500円分がプレゼントされます。本を読んで感想を書くだけで図書券がもらえるなんて、とってもお得な企画ですね。



コメントカード

コメント大賞

さらに年に1回、「全国読書マラソンコメント大賞」が開催されています。全国の大学生協がコメ

て、読書をさらに楽しみましょう。皆さんもぜひ参加してください。



次号は 2012年 8月中旬 発行予定

尚、予定は断り無く変更される場合がございます。

友蔵とは

「学生にもっと読書に親しんでもらおう」という理念のもとに生協と協力して創られた書評サークルです。年数回の書評誌発行や生協で行っている読書マラソンのお手伝いをしたりと積極的な活動をしています。普段はお昼に集まってのお喋りがメインなようなユルユルな感じでやっています。興味をもたれた方は、月・金の昼休みに教育7号館3階302号室あたりで集まっているのでお気軽にお越し下さい。お待ちしております。



Tomozo

Vol.18

編集長 アメヤ
編集長に昇進です。アメヤです。今回から新入生の方々が参加して tomozo の雰囲気もちょっと違いますね。とはいえ今年の新入生はかなり少なく結構マズイ……。というわけで友蔵は新入生を募集しています。ちょっとでも興味があったら遊びにきてください。愉快的仲間達がお待ちしています。

発行日 2012年6月9日

発行 生協読書推進委員会
友蔵

生協読書推進委員会
友蔵
毎週月・金曜日 昼休み
教育7号館3階

302号室あたりにて活動中

あとがき

大好きな漫画で初書評、嬉しいです。(催花雨)

書評デビュー！今後も頑張ります。(ユウ)

初めての書評。眠気と闘ってたらおかしな文に…笑
(真)

ヒトは何故に睡眠時間が必要なのだろう。(笙)

夏フェスいきたい(正弦)

どうして1日は24時間しかないんですか(真剣)
(銀魚)

書評とよぶにはヘレシィ、日記とよぶにはアンヘルシィ。(マトン)

友蔵図書館とかつくりたい(朝山)

やらないか(カルロス)



大学生協

大学生協インターネットサービスは早く、安く、便利です!

書籍インターネットサービス

http://honya.univ.coop/

生協ならインターネットでも
和書 **10%OFF!**



画像はクリック

CD/DVDもご利用できます

組合員証の提示にご協力ください

オンライン上で和書が検索・注文できます!

日販「HonyaClub.com」との提携で、早く確実なサービスを実現しています。
 ※「HonyaClub.com」のポイントサービスは生協では適用されません。
 ※宅配の場合は生協割引が適用されませんので定価販売になります。(送料負担あり)
 「本やタウン」をご利用されている皆様は、そのほかのID・パスワードで利用できます。
 新規にご利用希望の方は、登録をお願いします。

- 文庫、コミックから専門書まで注文できます。
- リアルタイムに在庫が表示されます。
- 在庫品は2~3日で店舗に到着します。

生協店舗で受け取れます。

- ご所属の大学生協店舗をご指定下さい。

メールで状況をご連絡します。

- 生協店舗に入荷した時点で「入荷案内メール」を送信いたします。
- 「ご注文履歴」はマイページから確認ができます。

オンライン書店だから
24時間営業

パソコン携帯からご注文可



お問い合わせは生協の店舗まで

【個人情報のお取り扱いについて】

※申し込みの際の個人情報は、ご本人との連絡、生協「HonyaClub.com」/日販「CS」の契約に利用させていただきます。
 また大学生協の発行する各種サービスに利用させていただきます。

平成十九年十月八日第一号発行 平成二十四年六月九日第十八号発行・配布

住所 神奈川県横浜市保土ヶ谷区宮前七十九-1 横浜国立大学教育七号館三〇二号室